

地域おこし協力隊活動報告

上越市清里区櫛池地区 地域おこし協力隊
高木 桂



地域おこし協力隊 活動の概要

- 活動地域：清里区櫛池地区

- 活動期間：令和3年4月1日～令和6年3月31日

- 活動内容（ミッション）

■指定棚田地域振興活動計画に基づく活動

①農村プロデューサーとして活動

「新潟県事業ビレッジプラン2030」の推進（集落活性化に向けた人材の確保・育成）

②農業担い手不足解決に向けた新たな取組み

「特定地域づくり事業協同組合「星の清里協同組合」運営支援

③地域行事への参加、新規イベントの企画、特産品の開発協力

「地域振興活動拠点の運営、イベント企画・実施、地域行事への参加」

「地域米販売用米袋の刷新・6次産業への協力・アイディア出し、各種グループの集会開催等」

④インターネットやSNSを活用したローカル情報の発信

⑤都市交流の継続と刷新

「現在取り組んでいる田植え、稲刈りツアーやかわさき市民祭りへの参加など都市交流事業の継続・刷新」



活動実績① 「星の清里協同組合」の創業支援

総務省「特定地域づくり事業協同組合」制度を活用した、農業担い手確保の取組



←↑活動1年目
組合設立のため、関係各所との調整や、事務局職員の募集、採用を支援



↑活動2年目
雇用された派遣社員と農業者との調整支援

←活動3年目
従業者募集（地域の農業者確保）のため、新農業人フェアへの出展

活動実績② 「きよさと朝市」の復活支援

清里小学校6年生 総合学習において、「きよさと朝市」を復活させる



- 1年目…ビレッジプランの活動の一環として6年生と意見交換をする
- 2年目…総合学習の計画づくりに加わり、朝市復活プロジェクトを支援（2回開催）
- 3年目…先輩から引き継いだ「きよさと朝市」の運営を、6年生と1年間通じて実施する（7回開催）

上越市「地域独自の予算」も活用し、販促物作成も





活動実績③ 「農村RMO形成推進事業」の推進支援

農林水産省事業「農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業（令和5～7年）
地域内での取組みに参画する（退任後も引き続き、地域住民として）



■「持続可能な農村地域づくり」に関する様々な活動を支援



■「農育連携」を軸に、上教大学部生、清里小中学校と連携した活動を実施



地域での生活、他活動

持ち家比率全国第5位の新潟県に移住して「夢のマイホーム」で定住を



■新潟県民間スタートアップ支援拠点「フルサット」での活動
退任後はフルサット運営会社・北信越ラボの「研究員」としての活動も



■清里区「ビュー京ヶ岳」カフェイベント支援
退任後も引き続き運営に参加します

退任後

■清里いばしょベースCha-yaの運営

地域おこし協力隊の活動任期は3年です。1年目から、退任後はどう生活をしていくかを意識・模索をしながら活動をしてきました。

その上で、大きな転機となったのが2年目に挑戦し採択された、総務省「地域おこし協力隊ビジネスサポート事業」です。

地域に入って活動する中モヤモヤと湧いてきた「やりたいこと」を、数名の専門家が、複数回オンラインで（強めに）アドバイスしてくださる事業です。

ここで「モヤモヤ」をブラッシュアップしてもらえる時間を過ごすことができ、前職で関わってきた児童福祉の経験も活かして、地域で暮らしくために自分ができることの整理ができました。

自分の子どももこの地域で「こども時代」を過ごすうえで、あつたらいいなと思う「サードプレイス」を作りたい。

でもそれを続けるためには収益事業も抱き合わせて取組む必要がある。

そこでたどり着いたカタチが、「農家民宿＋ワークスペース機能もあるこどもたちの居場所」です。

元気な地域

元気な過疎
地域活性
地域おこし
地域づくり
人口流出の歯止め
交流人口・関係人口
移住促進

子育てしやすい地域

子どもの居場所がある
だから親も居場所がある
大人のコミュニティができる
リタイア世代の活躍もある
子どもが戻ってくる
事業が生まれる
雇用が生まれる
孫も近くにいると元気

農育連携で

心に誇りとコンパスを



清里いばしょベースCha-ya

学習サポート



ワークスペース



多世代交流



子ども食堂



～心に誇りとコンパスを～
空き家を活用した多機能拠点の創設

体験型宿



おまけ

＼退任直前！令和6年3月2日「こども食堂」開催／



これからも、地域に必要とされ、私もやりたいと思える「地域おこし」の活動を続けていきます。

関わってくれる皆さんに感謝しながら。

地域おこし協力隊とは、
「自分の存在を地域に早く知ってもらえる」

そして
「たくさんの地域の情報が得られる」制度。

それは、初めての場所で暮らしていく上で有益であり、
何か活動や事業を始めたいときには大きな支えとなります。



これからもつながりを大切に、「恩送り」を続けていきます。
3年間、素晴らしい時間ありがとうございました。